

はじめに

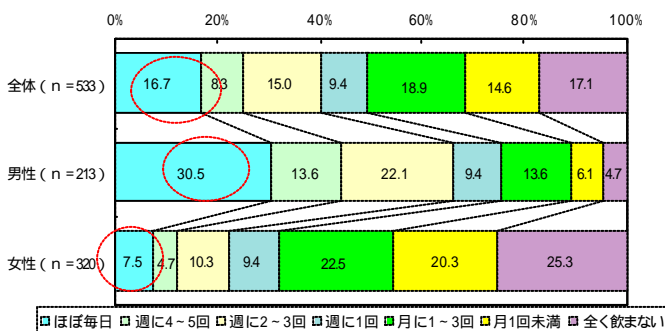
愛媛県民の飲酒実態を把握するため、県内在住者を対象に「飲酒に関するアンケート」を実施した。以下、このアンケート結果をもとに、県民の飲酒事情についてみていく。

アンケート実施内容	
1. 調査対象	2011年1月～2月
2. 調査方法	愛媛県内在住の個人
3. 調査時期	伊予銀行本支店にて調査票を配布、郵送にて回収。無記名式。
4. 回答状況	配布数：1,000 有効回答数：533 有効回答率：53.3%
回答者の属性	
1. 性別	男性 40.0% 女性60.0%
2. 年齢	30歳未満 21.2% 30歳代 20.8%
	40歳代 23.8% 50歳代 20.5%
	60歳以上 13.7%
3. 職業	会社員・公務員 61.3%
	自営業 11.1%
	パート・アルバイト 19.9%
	専業主婦 4.3%
	学生 0.6%
	無職 1.3%
	その他 1.5%
4. 居住地域	東予 32.8% 中予 46.7% 南予 20.5%
5. 婚姻状況	独身 32.1% 既婚 67.9%

1. お酒を飲む頻度

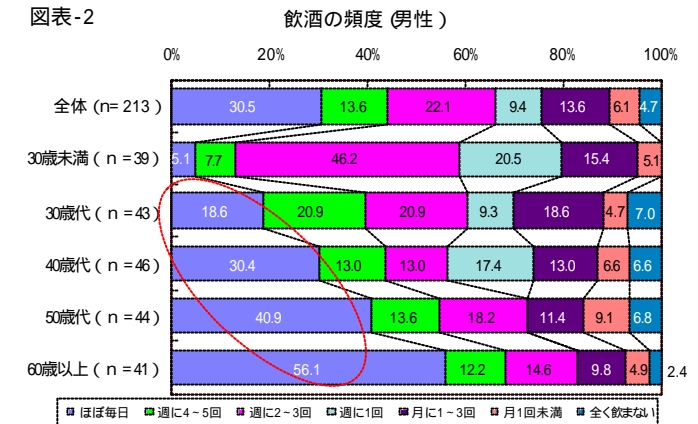
お酒を飲む頻度について尋ねたところ、16.7%の方が「ほぼ毎日」と回答した。特に、男性では、30.5%の人が「ほぼ毎日」と回答しており、女性の7.5%と比べ、その比率が高い。また、週に1回以上飲酒する人の割合は、全体でほぼ5割となった。

図表-1 お酒を飲む頻度

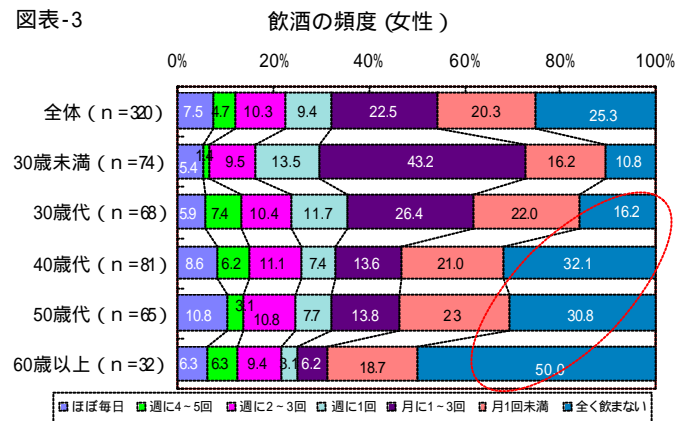


年齢別にみると、男性は年齢が上がるほど飲酒の頻度が多くなる一方、女性は年齢が上がるほど「全く飲まない」割合が増加することがわかった。

図表-2



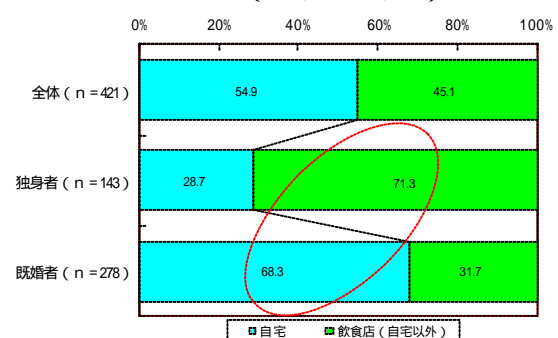
図表-3



2. 主な飲酒場所

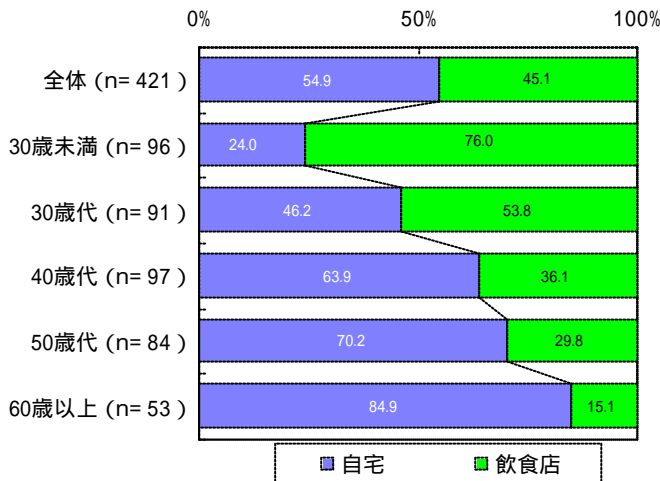
主な飲酒場所については、「自宅」と答えた人が54.9%で、「飲食店(自宅以外)」は45.1%であった。独身者・既婚者別では、独身者の7割強が「飲食店」と答えているのに対し、既婚者は7割弱が自宅と回答し、全く逆の傾向になった。既婚者は家飲み派、独身者は外飲み派が多いようだ。

図表-4 飲酒場所(独身者・既婚者別)



年齢別にみると、主として「自宅」でお酒を飲む人の割合は、年齢が上がるにつれて高くなっている。30歳代までは外飲み派が多いが、40歳代以上は家飲み派が多くなり、50歳代以上では、7割以上が家飲み派になる。

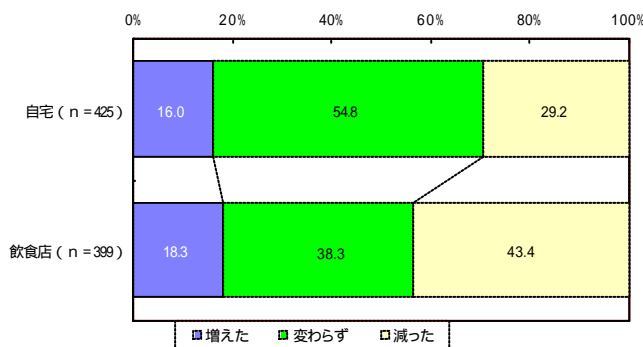
図表-5 飲酒場所 (年齢別)



3. 飲酒場所別の飲酒頻度の増減

3年前と比較して、お酒を飲む頻度の増減について尋ねたところ、飲食店については4割強の人が、自宅については3割弱の人が「減った」と回答し、ともに「増えた」とする人を大きく上回った。年齢別にみると、飲食店での飲酒頻度が「増えた」と回答した割合は、男女とも年齢が若くなるほど高い傾向にある。

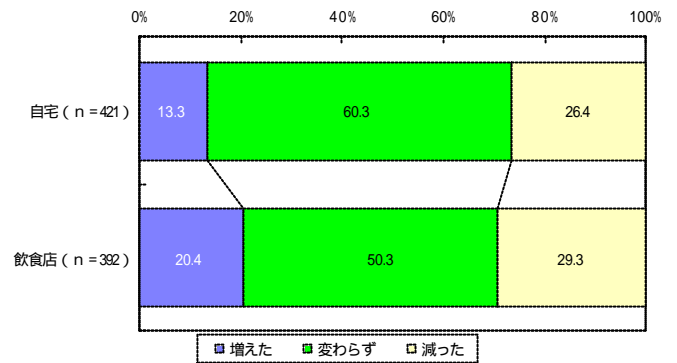
図表-6 飲酒場所別飲酒頻度の増減 (3年前比)



4. 飲酒場所別 1回あたりの予算の増減

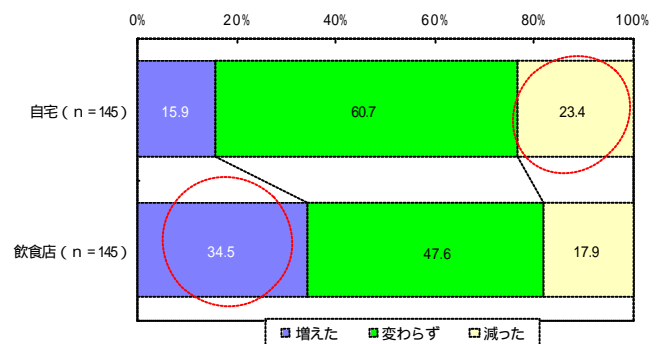
3年前と比較して、1回あたりの予算の増減について尋ねたところ、飲食店、自宅ともに、「減った」と回答した人の割合は3割弱であり、「増えた」を上回った。

図表-7 飲酒場所別 1回あたりの予算の増減 (3年前比)

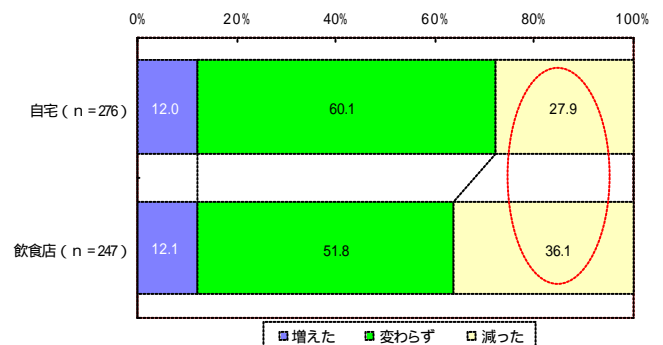


独身者・既婚者別では、既婚者は自宅・飲食店とも「減った」が「増えた」を上回ったが、独身者は自宅では「減った」が「増えた」を上回ったものの、飲食店では、「増えた」が「減った」を上回り、自宅と飲食店でメリハリをつけ、上手にお酒を楽しんでいるのかもしれない。

図表-8 飲酒時の予算増減 (独身者)



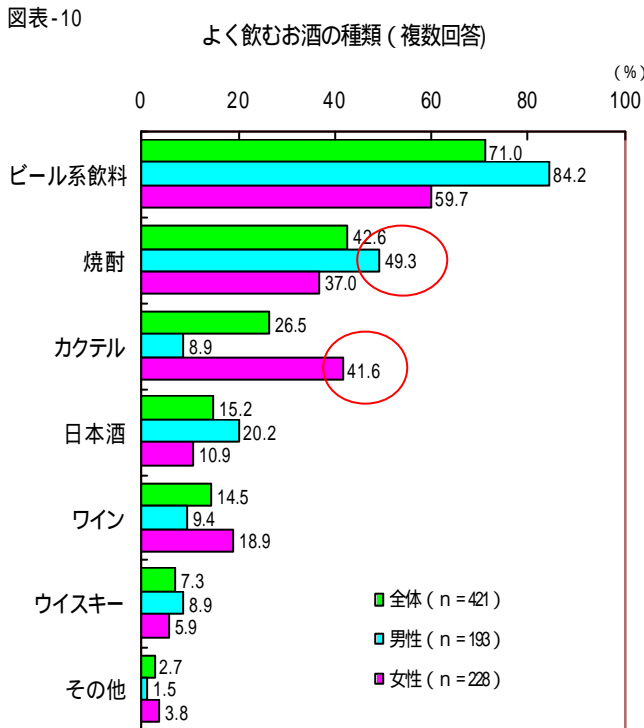
図表-9 飲酒時の予算増減 (既婚者)



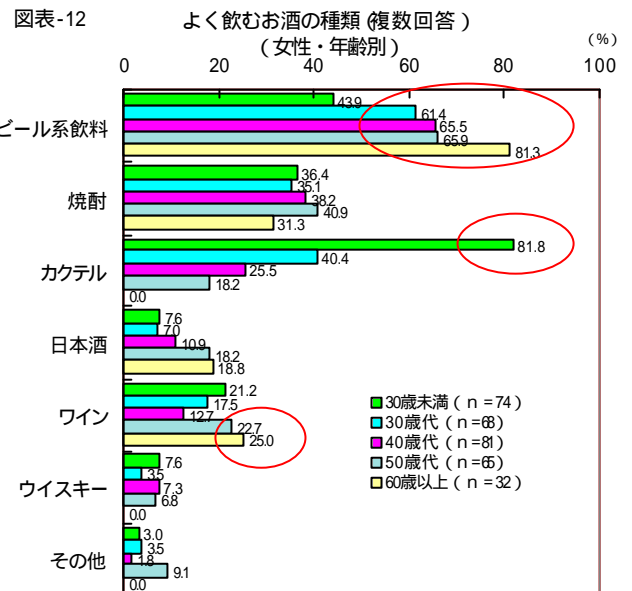
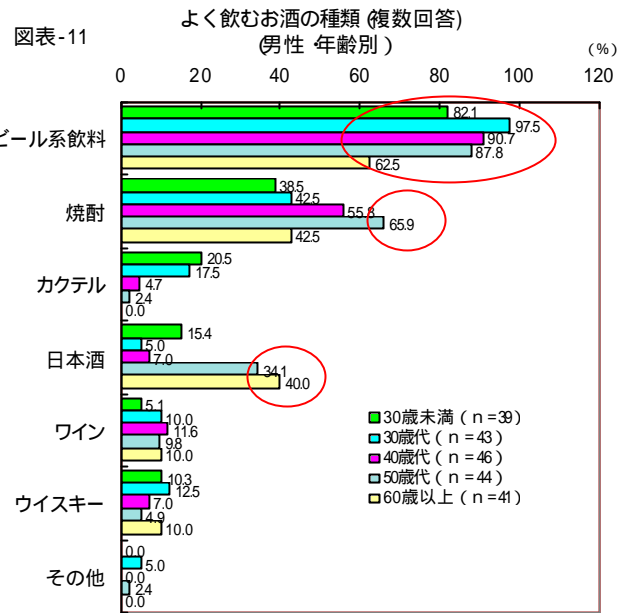
5. よく飲むお酒の種類

よく飲むお酒の種類について尋ねたところ、最も多かったのは、「ビール系飲料」の71.0%、次いで「焼酎」の42.6%、「カクテル」の26.5%の順であった。

男女別にみると、男性は「ビール系飲料」に次いで「焼酎」を飲む割合が高いのに対して、女性は「カクテル」の割合が高くなっている。



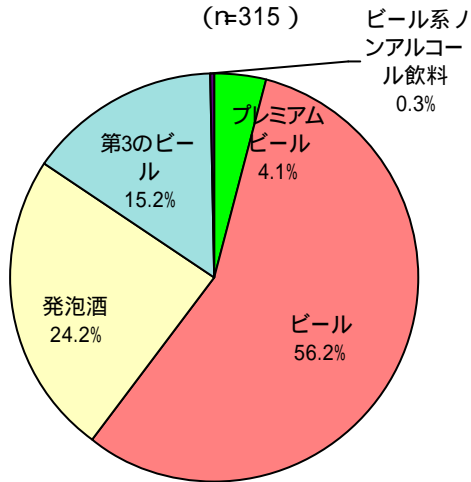
男女別年齢別にみると、「ビール系飲料」については男女とも全ての年齢でよく飲まれている。「焼酎」は50歳の男性に、「日本酒」は60歳以上の男性に、「カクテル」は30歳未満の女性に、「ワイン」は50歳以上の女性によく飲まれているようだ。



6. ビール・発泡酒・第3のビールの飲まれ方

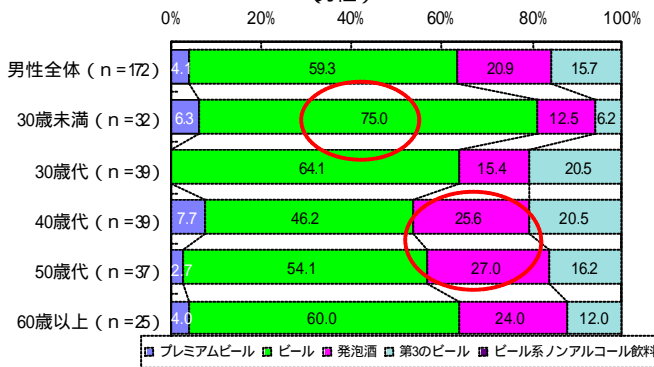
「ビール系飲料」を選んだ人に、よく飲むビール系飲料の種類を尋ねたところ、最も多かったのは、「ビール」の56.2%で、次いで「発泡酒」の24.2%、「第3のビール」の15.2%の順であった。ビール系ノンアルコール飲料はわずか0.3%にとどまった。

図表-13 よく飲むビール系飲料の種類

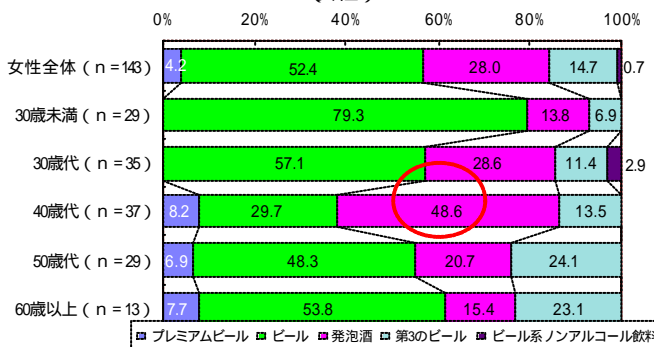


男女別年齢別にみると、30歳未満の男性では、「ビール」が75.0%と圧倒的であるものの、40歳代、50歳代では、発泡酒の比率が高まる。また、女性でも40歳代で48.6%が「発泡酒」と回答するなど、中年層を中心に、価格面を重視して選択している傾向が見て取れる。

図表-14 よく飲むビール系飲料の種類 (男性)

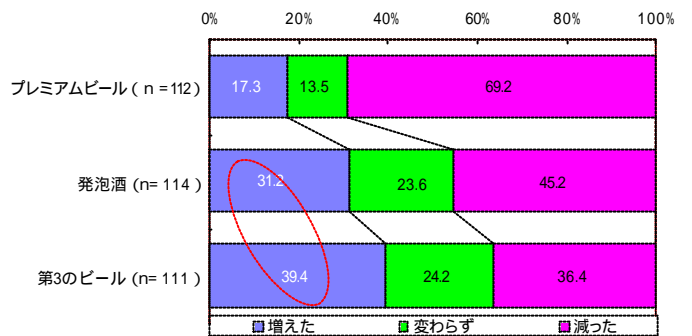


図表-15 よく飲むビール系飲料の種類 (女性)



「ビール」の飲酒頻度が減少した人について、その他ビール系飲料の飲酒頻度の増減をみると、「発泡酒」が増えた人が31.2%、「第3のビール」が増えた人が39.4%となっており、ビール系飲料の中で種類を変更している人も相当数いることが確認できた。

図表-16 ビールの飲酒頻度が減った人の他のビール系飲料の飲酒頻度の増減



おわりに

今回のアンケートを通して、愛媛県民のお酒の飲み方が変化していることが明らかになった。具体的には、飲酒頻度を減らしている人が多く、特に、既婚者は、自宅、飲食店ともに1回当たりの予算まで減少させていた。また、ビール系飲料の種類を「ビール」から「発泡酒」や「第3のビール」へ変更している人が相当数いた。

一方、独身者は、自宅と飲食店でメリハリをつけ、お酒を楽しんでいる。

性別や年齢などによってお酒の飲み方や節約の仕方は違うものの、限られた予算内で、上手に飲酒を楽しんでいる姿がうかがえた。

(篠原 敏夫)